

ぎふ農業・農村を支える人材育成**■長期農業研修生 青年等就農計画作成説明会を開催**

今年度、下呂地域では7名の就農希望者があすなろ農業塾長の下で農業研修を受けています。このうち農業研修1年目の2名は就農予定地の目途が立ち、令和7年4月に就農する予定です。

農業普及課では、12月12日に下呂市農務課担当者、JAひだ益田営農センター営農指導員とともに、青年等就農計画の作成説明会を開催しました。

説明会では、認定新規就農者の法的位置づけや就農計画を作成する時の留意点について詳しく説明しました。

農業研修生は、これからおよそ1年かけて就農計画を作成していきますが、農業普及課では、それぞれの就農準備の進捗状況に合わせて、適宜個別相談も行っていく予定です。また、座学での農業研修が多い冬季においては、就農計画の原案作成を支援し、2年目の農業研修がより充実したものになるとともに、スムーズに営農が開始できるよう市やJAと連携し支援していきます。



【就農計画作成説明会の様子】

(地域支援係)

安心で身近な「ぎふの食」づくり**■水稻 馬瀬ひかり生産組合反省会で指導**

下呂市馬瀬地域では、冷涼な気候と良質な水を活かした良食味米の生産が行われています。

馬瀬ひかり生産組合（代表者：山本正道、組合員数13戸）では、コシヒカリを独自ブランド「馬瀬ひかり」として販売し、下呂市内のホテルや飲食店で使用されるなど高い評価を受けています。

農業普及課では、これまでに青空教室の開催や各種米コンクールへの出品のための刈り取り時期の指導などを行っています。

12月20日に開催された反省会では、農業普及課から本年度の飛騨の美味しいお米食味コンクールや米・食味分析国際コンクールで出点されたお米の傾向や馬瀬地域で行った土壌改良剤の試験結果などについて、情報提供を行いました。

生産者からは、「コンテストで入賞できるようなお米を生産するため、どんな栽培方法にしたら良いか情報提供して欲しい。更なる食味向上に向け、施肥試験などに積極的に協力したい。」などといった意見があり、良食味米生産に対する熱い思いが感じられる反省会となりました。

農業普及課では、次年度も良食味米の安定生産に向け栽培支援を継続していきます。



【反省会の様子】

(地域支援係)

■ほうれんそう 下呂ほうれんそう部会の反省会を開催

12月11日、JAひだA-PCにおいて、下呂蔬菜出荷組合ほうれんそう部会（部会長：今井慎太郎、部会員数11名）の反省会が開催されました。

今年のほうれんそうは、夏季に長く高温が続いた影響などから、夏場の出荷量が少なくなり、全体の出荷量は前年度の約77%にあたる4,779ケースに留まりました。

反省会では、まずJA全農岐阜及びJAから今年度の販売実績と次年度の取り組み方針など説明があった後、農薬メーカーから今年実施した殺虫剤の試験結果について情報提供がありました。

農業普及課からは、今年度をもって廃止となるぎふクリーン農業表示制度に代わる新たな栽培基準やアザミウマ類の発生状況調査結果、国のみどりの食料システム戦略に係る農薬リスク低減の試験計画などについて、情報提供を行いました。

部会員からは、ハウレンソウケナガコナダニやチョウ目害虫の防除体系に関する質問が多く出され、害虫対策の関心の高さが伺えました。

今後、農業普及課では、次年度も高温傾向となることを想定し、遮光による高温対策を推進するとともに、害虫対策の徹底を図るなど、ほうれんそうの安定生産を支援していきます。

(地域支援係)



【反省会の様子】